《タイ》選挙結果を受けた連立工作の行方(上)

反軍政連立のリーダーたち：プロフィール

3月24日に実施されたタイ総選挙(下院：定数500)の結果を受けて、タクシン元首相派の「タイ貢献党」や革新系の新党「新未来党」など現軍事政権と対立する計7党は同27日、連立を組むことで合意したと発表した。タイ選挙管理委員会は最終的な選挙結果を5月9日に公表する予定だが、この反軍政系7党は独自の見通しから「下院での合計議席が過半数に達した」として、連立政権を樹立する権利があると主張している。ただ、7党が推す首相候補が6月初旬までに成立する議会(上下院)で新首相に選出される可能性は低いことなど、反軍政政権樹立構想の前にはいくつものハードルが待ち受けている。

新首相の選出は、下院だけでなく、現軍事政権の最高決定機関「国家平和秩序評議会(NCPO)」が任命(選管の総選挙結果公表後に議員名簿を発表)する上院(定数250)との合同議会(計750議員)で行われるため、下院第2党が確実となっている親軍政系政党「国民国家の力党」が首相候補に擁立するプラユット現首相(元陸軍司令官)の選出(続投)となる可能性が高い。

プラユット首相

合同議会では、過半数の376票以上を得た候補が新首相に選出されるが、上院議員250人は揃ってプラユット首相に投票すると想定されるため、下院で376票を確保できないかぎり反軍政連立が推す首相候補には初めから勝ち目はないことになる。

反軍政連立の下院議席数

反軍政系7党が連立合意に達した翌日(3月28日)に選管が発表した総選挙での各党の得票数(開票率100%だが暫定結果)と小選挙区での議席数(暫定)に基づいて、英字紙「バンコク・ポスト」が算定したこの7党の比例代表を含む議席数は下記の通り。

＊タイ貢献(プアタイ)党137　＊新未来(アナーコット・マイ)党87　＊タイ・リベラル(セーリールアムタイ)党11　＊新経済党6　＊国民国家(プラチャーチャート)党6　＊国家貢献(プアチャート)党5　＊タイ人民の力(パランプラチャーチョン)党1

7党の合計議席数は253で辛うじて過半数に達してはいる。ただ、「新経済党」は反軍政連立への参加を約束したとしているものの、連立を発表した記者会見に代表を送っておらず、本稿執筆時点(3月31日)ではその去就が注目されている(同党が参加しなれば同連立は6議席減り、下院の過半数を割ることになってしまう)。

親軍政系・中立系政党の下院議席数

これに対して、親軍政系「国民国家の力党」など反軍政系7党以外の親軍政系・中立系政党の議席数(同紙の算定)は下記の通り。

＊国民国家の力(パランプラチャーラット)党118　＊民主(プラチャーティパット)党54　＊タイ威信(プームチャイタイ)党52　＊タイ国家発展(チャートタイパッタナー)党11　＊タイ国民団結(ルアムパランプラチャーチャートタイ)党5　＊国家発展(チャートパッタナー)党3　＊タイ地方の力党2　＊森林保全党1　＊タイ国家の力党1

選管が発表した暫定結果によると、「国民国家の力」党は議席数では下院第2党だが、全国での総得票数では約843万票と「タイ貢献党」の約792万票を上回りトップに立った。「国民国家の力党」のソンティラット・ソンティチラウォン(Sonthirat Sonthijirawong)幹事長は3月28日の記者会見で、「(最多得票の)我が党が第1党であり、政権を担うべきだ」と同党を中核にする連立政権を樹立すると宣言した。

同党が議員数で反軍政連立に対抗するためには、連立相手として下院第4党の「民主党」、第5党の「タイ威信党」、第7党の「タイ国家発展党」は外せないところで、反軍政系7党以外の9政党から出来るだけ多くの党を糾合したいところだろう。

「民主党」と「タイ威信党」の出方

ただ、反タクシン派である「民主党」の幹部には、「タイ貢献党」が率いる反軍政連立には参加しないものの、親軍政連立にも参加せずに、新政権に対して政策ごとに是々非々で対応する独立系野党を目指すべきとの声がある。また、「タイ威信党」に対しては、反軍政連立がアヌティン・チャーンウィラクン(Anutin Charnvirakul)同党党首を同連立の首相候補にするとの条件を提示して、同連立への参加を強く勧誘しているとの情報も出ている。

いずれにせよ、「国民国家の力党」、「民主党」、「タイ威信党」の3党とも5月9日に選挙の確定結果が発表されるまでは、少なくとも公式にはいかなる連立に関する立場も表明しないとの姿勢を示している。

これは下院での親軍政・反軍政両陣営による連立工作は、新議会の成立前後、さらに両院議会による首相選出までかなりの紆余曲折を辿ることが予想され、その過程ではタイ政界にお馴染みの政党や政党内部の派閥による「陣営替え(寝返り)」もあることを示唆している。

下院の空転状態というシナリオ

しかも、現行の2017年憲法には、新議会の招集から首相選出までの期限に関する規定がないため、連立工作や首相選出に向けた協議などによる下院の空転状態がどれだけ長期に及んでも法的な問題はない。このように、新政権成立以前の段階で議会が収拾不能なほど深刻な混乱に陥る事態が、地元専門家の一部では否定できないシナリオとして想定されている。

この間、プラユット首相は「次期内閣がワチラロンコン国王の御前での就任宣誓式を経て正式に成立するその瞬間まで」(ヌィサヌ・クルアガーム法務担当副首相)行政府の長に留まっており、しかもNCPO議長を兼任する立場から(新憲法下でも新政権が成立するまでの経過措置として認められている)2014年暫定憲法44条に規定された「超法規的」ともいえる行政令を発令する「大権」を依然として持っているのである。

政権運営は早晩にも困難に直面

あくまでも本稿執筆時点での予想だが、「国民国家の力党」の筋書き通りに、続投となったプラユット首相率いる親軍政連立政権が成立しても下院で少数派となる可能性が高い。その場合は、憲法の規定で内閣不信任案の審議と採決は下院にだけ認められているため、早晩にも野党陣営(「反軍政会派」)の同案を「伝家の宝刀」とする攻勢に晒され政権が危機に直面することが予想される。そうでなくとも、過半数がなければ諸法案の審議と下院通過には困難が伴う。

一方で、仮に、反軍政連立政権が誕生したとしても、親軍政の上院がある限り、政権運営は難航すると言わざるをえない。というのは、現行憲法では、憲法条項関連や国家改革関連の法案について、下院での審議が紛糾した場合は、上院議長が委員長を務める両院合同委員会で裁定することになっているからである。こうした審議の対象となる法案としては、憲法の条文の解釈次第で予算案の審議さえも「国家改革関連」とみなされて上院が審議への参加を要求できると専門家は指摘している。

さらに地元政界通の一部では、政権樹立を巡って下院が紛糾し首相選出の合同議会が開けない事態が長引く場合には、首相指名をワチラロンコン国王の裁定に委ねるという「超法規的」な解決策の可能性についても取り

沙汰されている。

これも仮にだが、そうしたケースがあるとすれば、国王は、国軍と官僚などのエリート層がタイ王室を推戴していることからもプラユット首相の続投を裁定する可能性が高い。国王が自ら進んで現在の「タイ式民主主義」の体制を反転させる理由は見つからないからだ。

現行2017年憲法の「陥穽」

こうみてくると、今更ながらだが、2017年憲法は軍政の「亜流政権」を誕生させることを目的として制定されており、反軍政連立政権が成立した場合には議会と行政府の運営が困難になるように仕組まれているといえる。

しかし、そうした仕組みは、上述したような下院で少数派の政権となった場合など、状況次第で親軍政政権にも困難をもたらすことになる。現行憲法が内在的に持っている制度上の「矛盾」あるいは「陥穽」だともいえる。

(注)総選挙後の政党間の連立工作は流動的な要素が多く、本稿はあくまでも3月31日現在の政治状況に基づいた筆者の見解である。

〔反軍政系政党のリーダーたち〕

■スダーラット・ケーユラーパン Sudarat Keyuraphan

◎タイ貢献(プアタイ)党首相候補

Prime Ministerial Candidate of the Pheu Thai Party

「タイ貢献(プアタイ)党」選挙戦略委員長。同党が選管に届け出た3人の首相候補の1人(実質的な筆頭候補)。6月までに成立する新議会での首相指名選挙で、反軍政連立(会派)が、親軍政会派のプラユット候補(首相)に対抗する統一候補として立てる可能性が高い。昨年来の各世論調査では、「次期首相にしたい政治家」の支持率でプラユット首相とトップを争ってきた。今回の総選挙での同党の勝利も同(スダーラット)氏の人気に負うところが大きい。

＊「タイ貢献党」が政治基盤にする東北部や北部ではなく、同党の「バンコク・グループ」のリーダー。洗練された物腰から都市部の中産階層にも支持者が多い。また、現軍事政権のプラウィット副首相兼国防相(元陸軍司令官)とは良好な関係を持っており、国軍とのパイプもある。

＊民主党主導のチュアン連立政権やタイ国民党主導のバンハーン連立政権で副大臣を歴任し、タクシン政権では保健相を務めた。しかし、2006年9月の軍事クーデターに伴うタクシン派「タイ愛国党」の解散命令に伴い、07年5月に5年間の公民権停止処分を受けた。

▼データ：【年齢】57歳(1961年5月1日生まれ)【生地】バンコク【政党】タイ貢献党：選挙戦略委員長【学歴】チュラロンコン大学卒(商学・会計学士)/同大学経営学修士(MBA)/マハーチュラロンコンラーチャウィタヤラヤ大学博士(PhD：仏教学)【経歴】政治家/［1991年］下院議員に初当選(バンコク12区：法力党)/［92年3月総選挙］下院議員(2期目)、(チュアン政権)政府次席報道官/［94年10月］副運輸相/［95年7月総選挙］下院議員(3期目)/［96年5月］バンハーン政権)副内相、［11月総選挙］下院議員(4期目)/［2001年総選挙］下院議員(5期目)、［2月］(タクシン政権)保健相/［05年3月］農業・協同組合相(－9月)/［07年5月］公民権停止処分(－12年5月)/［19年2月11日］(選管が公表)タイ貢献党の首相候補(－現在)【党歴】［1994年］法力(パランタム)党幹事長/［98年］タイ愛国党創設メンバー(タクシン党首ら計22人)/タイ貢献党戦略委員長(－現在)【家族】夫君は不動産会社経営者のソムヨット・リーラパンヤラート(Somyos Leelapunyalert)氏。子供は2男1女。

■チャッチャート・スティパン(博士) Dr Chadchart Sitthiphan

◎タイ貢献(プアタイ)党首相候補

Prime Ministerial Candidate of the Pheu Thai Party

「タイ貢献(プアタイ)党」党が選管に届け出た3人の首相候補の1人。同党の党員に対する調査では、(上述の)スダーラット候補を抜いて一番人気だったことから、今年初めには筆頭候補に目されたこともあった。交通工学の専門家で元チュラロンコン大学学長。タクシン派のインラック政権では運輸相を務めた。タクシン元首相と個人的に極めて親しい間柄。

▼データ：【年齢】52歳(1966年5月24日生まれ)【政党】タイ貢献(プアタイ)党【学歴】チュラロンコン大学工学部卒(建設工学)/(米)マサチューセッツ工科大学(MIT)工学修士(構造工学)/(米)イリノイ大学工学博士【経歴】チュラロンコン大学技術教育サービス・センター長/同大学学長/［2012年1月］(第2次インラック内閣)副運輸相、［11月1日］(第3次インラック内閣)運輸相(－14年5月)/［19年2月11日］(選管が公表)タイ貢献党の首相候補(－現在)【歴任】タイ高速度交通公社(MRTA)理事

■タナトーン・チュンルンルアンキット Thanathorn Juangroogruankit

◎新未来(アナーコットマイ)党党首

Leader of the Future Forward(Anakot Mai)Party

2018年3月に政治の民主化や反軍事政権を標榜して新党「新未来(アナーコットマイ)党」の結成を主導し、同5月の党総会で党首に就任。今回の総選挙で、同党がメディアや世論調査による事前の予想をかなり上回る87議席(暫定結果)を獲得し、(伝統ある「民主党」を抜いて)下院第3党に就けた立役者。「タイ貢献党」とタッグを組んで軍政の「亜流政権」誕生阻止に向けて邁進している。新議会では、親軍政会派にとって手強い論客になるとみられる。

＊自動車部品大手「タイ・サミット・グループ」創業家の「御曹司」で、党首就任の直前までの16年間、副社長として同社を米国、日本を含む海外7カ国に製造施設を持ち、1万6,000人の従業員を擁する国際的な複合企業に成長させた。

▼データ：【年齢】40歳(1978年11月25日生まれ)【生地】バンコク【政党】新未来(アナーコットマイ)党：党首【学歴】タマサート大学卒(機械工学〔優等〕)/チュラロンコン大学修士(政治経済学)/(米)ニューヨーク大学修士(国際財政学)/(スイス)ザンクトガレン大学修士(国際ビジネス法学)【経歴】［2002年］(海外留学から帰国)「タイ・サミット・グループ」副社長(－18年5月)/［18年3月15日］新未来党結党(共同創設者)、［5月27日］(第1回同党総会)党首に選出(－現在)/［19年2月11日］(選管が公表)新未来党の首相候補(－現在)【歴任】［1999年］タマサート大学学生自治会会長/タイ学生連盟副書記長【家族】ラウィーパン(Rawiphan Daengthongdi)夫人との間に子供4人。

(**参考**)タナトーン氏のより詳細な［人物データ］については、本誌2019年1月1・15日合併号の当欄「《ＡＳＥＡＮ》次代を担う青年政治家たち」を参照されたい。

■セーリーピスット・テミーヤウェート(警察大将)

Pol Gen Sereepisuth Temeeyaves

◎タイ・リベラル党党首 Leader of the Thai Liberal Party

今回の総選挙で下院第6党(暫定結果で11議席)に就けた「セーリールアムタイ(自由団結)党」、通称「タイ・リベラル党」の党首。元国家警察庁長官(退役警察大将)。今回の総選挙には、独裁体制と汚職体質を批判する立場から反軍政姿勢を鮮明にして臨んだ。

＊警察組織内では「一匹狼」的な「クライムバスター」として知られ、過去に誰も手が出せなかったバンコクや地方のマフィア・ボスを次々と逮捕した。同僚の警察高官の多くからは疎まれた面もあるが、一般国民の中には現在でも熱烈な支持者がいる。佐官時代までの名前は「セーリー」だったが、「セーリーピスット」に改名している。

＊2006年9月の軍事クーデター後に成立したスラユット軍事政権で国家警察庁長官に任命されたが、08年9月にタクシン派のサマック首相によって解任された(今回、過去には宿敵だったタクシン派が主導する反軍政連立に参加した経緯には首を傾げる向きもある)。

▼データ：【年齢】70歳(1948年9月3日生まれ)【生地】(旧)トンブリー(現ノンタブリー県)【政党】タイ・リベラル(セーリールアムタイ)党：党首【学歴】国軍士官学校予科卒(8期生)/警察士官学校卒(24期生)【経歴】東北地方でタイ共産党(CPT)ゲリラ掃討作戦に従事/［1992年2月］軍事クーデターの母体「国家治安維持評議会(NPKC)」によって警察組織から追放される/復職/［94年］第2管区警察局長/(タクシン政権)国家警察庁監察総監(警察大将)/［2007年2月］(スラユット軍事政権)国家警察庁長官(－08年4月)/［13年12月］タイ・リベラル党党首(－現在)/［19年2月11日］(選管が公表)タイ・リベラル党の首相候補(－現在)【家族】パッタサウィーシリ(Phatsaweesiri)夫人。子供3人。

(アジア・リンケージ　勝田悟)